

自動車リサイクルのカーボンニュートラル及び
3R の推進・質の向上に向けた検討会
令和 5 年度第 2 回検討会 議事概要

1. 日時: 令和 5 年 12 月 18 日(月)13:00～15:00

2. 場所: Teams によるオンライン会議

3. 参加委員: 酒井伸一座長、村上進亮委員(共同座長)、石田道昭委員、
小野田弘士委員、鬼沢良子委員(欠席)、酒井康雄委員(欠席)、
堂坂健児委員、永井辰幸委員、中野勝行委員、西尾知久委員、
矢野順也委員、山本雅資委員(欠席)

事務局: 環境省環境再生・資源循環局 総務課 リサイクル推進室

株式会社三菱総合研究所 エネルギー・サステナビリティ事業本部

オブザーバー: 経済産業省製造産業局 自動車課

4. 配布資料:

資料1: 委員名簿

資料2: 令和 5 年度第 1 回検討会での主なご意見と対応

資料3: 温室効果ガス排出実態把握結果及び削減方策の考え方

資料4: 資源回収インセンティブとカーボンニュートラルの連接に向けた検討

資料5: 解体・破碎工程の GHG 排出量削減に向けた具体方策

資料5-1: 解体・破碎業者向け GHG 排出量削減の手引き(本編)(案)

資料5-1(別紙): 解体・破碎業者向け GHG 排出量削減の手引き(資料編)(案)

資料5-2: 解体・破碎業者向け GHG 排出量算定モデル(案)

参考資料: 自動車リサイクルのカーボンニュートラル及び 3R の推進・質の向上に向けた検討

会令和 5 年度第 1 回議事概要

5. 議題

1. 令和 5 年度第 1 回検討会でのご意見と対応について(資料2)

2. 温室効果ガス排出実態把握結果及び削減方策の考え方について(資料3)

3. 資源回収インセンティブとカーボンニュートラルの連接に向けた検討について(資料4)

4. 解体・破碎工程の GHG 排出量削減に向けた具体方策について(資料5)

5. その他

6. 委員からの主な意見:

● 1. 令和 5 年度第 1 回検討会でのご意見と対応について
なし

● 2. 温室効果ガス排出実態把握結果及び削減方策の考え方について

【GHG 排出量の精緻化・排出削減方策の検討について】

- ・ リサイクルし易いものを海外から持ってきて再生プラスチック利用率を達成し、国内で発生したリサイクルし難いものは燃やすということでは意味がない。
- ・ 削減対策を行い排出係数の更新が図られたものを社会として認証する必要があるかについては、影響の大きいファクターについてはやっていく必要があると思うが、それをどういうシステムで行うか、検討が必要である。

【再利用可能部品の GHG 排出量・削減効果の試算方法について】

- ・ フロントドア ASSY の排出削減効果の算定結果について、今後算定結果の妥当性の検証は行ってもらいたいが、自動車の ASR 全体の CO2 排出量で見たときにどれくらいの効果になるかについても、一定の整理が必要だと思う。次回の検討会では一步踏み込んで、自動車リサイクル全体の CO2 の削減効果を整理頂けるとよい。
- ・ 板ガラスにリサイクルした場合のエネルギー起源 CO2 の排出削減効果について、LCI データベース IDEA の原単位の単位からの換算を、改めて確認いただきたい。
- ・ 「控除」という言葉を使わず「排出削減」に統一されているが、どういう用語をどういう文脈で使っているか、引き続き調査し、最終版で確定するような手順でやってもらいたい。

【GHG 排出実態や排出量試算結果の妥当性について】

- ・ 専門分野の方々からすると不自然なところがいくつかある。全体的にピアレビューが必要であり、学識者や専門分野の委員の方々のチェックの機会を作らなければならないと思っている。事務局に一任するのではなく、検討会として関連するところはレビューを行うようにしたい。
- ・ レビューの仕切りを誰がやるかについては、まず事務局として算定システム全体を第 1 検証、第 2 検証という形で誰に検証してもらいたいか具体的に抽出し、次に委託者である環境省としてはどう考えるかを考慮する、そして検討会における専門家の委員が合議的に進めていくというやり方になると思う。
- ・ ASR 再資源化の GHG 排出量について、ヒアリング結果なのでデータ公開は難しいかもしれないが、CO2 の排出係数や消費電力の換算係数など、公開できるものは公開していただいた方が妥当性の確認がしやすいので、可能な範囲でお願いしたい。エネルギー起源で計上した燃料の種類などは、項目のリストアップがあると確認しやすい。

【事前選別処理品目について】

- ・ 「焼却施設では火薬製品を手作業で扱うことへの不安感もあり」とある。解体業者で事前選別処理品目として発炎筒を取り外しているが、外装容器の取り外しが推奨されるのであれば、解体段階で外装容器を外すことの定義や提案が必要ではないか。解体段階で外装容器を外すことにより発火の危険が増すのであれば検討が必要だが、発炎筒の処

理施設でこれほど外装容器が回収されるということであれば、まずは解体業者において外装容器も回収するという定義が必要だと思う。

- ・取り外されなかつた発炎筒の危険性についても本検討会資料のまとめでも触れてほしい。全国的にも発炎筒が原因と思われる火災がたくさん起こっていると思う。発炎筒の危険の除去も含めて取りまとめて発信することで、容器の素材であるポリエチレン(PE)の回収の面でもより効果が出ると思う。

● 3. 資源回収インセンティブとカーボンニュートラルの連接に向けた検討について

- ・これまでの議論から、JARS の大規模改造に GHG 排出削減効果の評価に関する話は組み込まれないと理解しているが、今後算定にあたって具体的にどういうアプローチ等を構築するか、原単位の確からしさをどのように検証するかが重要なプロセスになると思っている。
- ・議論全体を俯瞰しひとりで言える人がいない状況なので GHG 評価に関してコンソーシアムが立ち上がったときにどうやり取りするか、JARS との連接をどうするか、といったことが事後対応になるのではと危惧している。誰がどう旗を振るのかを、次回の検討会までに事務局で整理してきてほしいと思っている。

● 4. 解体・破碎工程の GHG 排出量削減に向けた具体方策について

- ・こういった取り組みは多くの企業が参加しなければ進まないと思っている。そのため経済性や採算性が重要であり、事業の効果を示して頂いたことに感謝する。一方で、ベストプラクティスとしての説明に留める等の工夫が必要だと思う。
- ・数字の出し方は慎重になったほうがよい。(公財)自動車リサイクル高度化財団 (J-FAR) の実証事業を紐解いて記載したと思うが、その時の事業の前提条件に依るので、数字を一般化するのはリスクがある。
- ・資源回収インセンティブ制度の議論を別途行っているが、これまで中間とりまとめであった制度のガイドラインについて、今後、最終的な取りまとめが発行されると思う。それとタイミングや内容をリンクさせた方が良い。読む側も表現が異なると混乱するので、資源回収インセンティブ制度の動きをよく見ながら書いた方がよい。
- ・算定モデルは将来的にウラノス・エコシステムのプラットフォームに載せると思うが、データフォーマットがどうなるかを見ながら算定モデルを設定していくかないと、世の中のデータフォーマットの動きと乖離するので、注意したほうが良いと思う。
- ・全体像が見えてないことが反省点であり、うまく交通整理できると良い。GHG 関係のデータに関しては、データフォーマットが分からなければ、比較的オープンエンドな形にして、どんなシステムにもうまく入るよう、算定モデルを作り込み

過ぎないといったことに気を付けると良い。次回までに全体像をある程度交通整理した資料を作つてもらえると良いと思う。

● 5. その他
なし

以上